

# 保 存 活 用 計 画 書

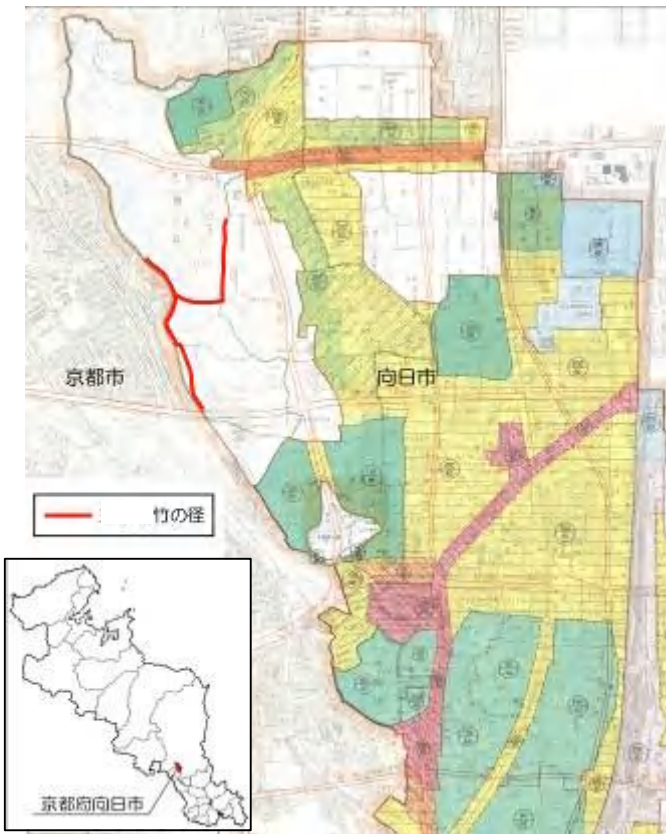
景観資産の名称	西ノ岡・ <sup>たけ</sup> 竹の <sup>みち</sup> 径 ～緑の散策路～
申 請 者	向日市、向日市竹産業振興協議会

## 代表写真



## 1 位置及び範囲

### 【位置】



### 【登録範囲と範囲設定の考え方】

向日市西ノ岡丘陵地域にめぐる全長約1,800mの竹林道及び竹林道に接する竹林を設定します。(約10ha)



## 2 自然、歴史、文化等からみた特性

### □景観資産の魅力

「竹の径」は、西ノ岡丘陵の竹林をめぐる竹林道（市道第1036号線、第1037号線、第1038号線、第2084号線）で、平成12年度から向日市が整備を進め、向日市竹産業振興協議会が製作・設置するとともに自主的に維持管理を行っている「竹穂垣」や、向日市オリジナルの「古墳垣」「寺戸垣」「物集女垣」「かぐや垣」の6種類の竹垣を整然と連ねた、全長約1,800メートルになる散策路です。

真っ青に澄みきった空に、竹が割り込むかのようにそそり立ち、また風がおこす笹音や小鳥のさえずりをBGMに、木もれ日や香りを楽しむ「癒しの散策路」として市民や観光客に親しまれています。



### □自然的特性

「竹の径」は、京都市に隣接する向日市北西部の西ノ岡丘陵内に位置します。西ノ岡丘陵には、古墳群などの歴史的資源をはじめ、NHKの朝のテレビドラマ「ほんまもん」でも紹介された向日市の特産品である良質の筍を生産する竹林が広がっており、緑豊かで静かな地域です。

### □歴史・文化的特性

向日市は、奈良時代後期に平城京から平安京に都が遷都されるまでの10年間、長岡京の都として日本の政治の中心となっていました。当時の都の遺跡が数多く残っており、大極殿遺跡や、国の史跡に指定された公園として内裏公園や築地公園などがあります。

提案地域は、歴史街道古墳巡りコースや西ノ岡トリムコースにも設定しており、ウォーキングや散策の場として市民の皆さんや多くの観光客にも親しまれています。

古墳時代前期の前方後円墳「寺戸大塚古墳」が「竹の径」に隣接し、その接道部分には古墳の形をイメージしてデザインした「古墳垣」を設け、歴史のロマンを魅了したものとなっています。

### □周辺環境との関係

京都市西京区域に所在する「洛西竹林公園」は、竹類の植物資源の見直し活用を目的に、竹の資料館、生態園、子供の広場で構成された施設であり、「竹の径」に隣接して位置することから、「洛西竹林公園」と相互に連携し、観光資源、景観形成を図っていきます。

### 3 景観の保存、育成及び創造に関する事項

#### □法律や条例などによる景観上の規制誘導事項

「竹の径」を中心とする一体の竹林は、昭和5年2月1日に西国風致地区の一地区に指定され、建築物及び工作物の建築等に当たっては地域の趣ある景観を保存します。

また、本竹林は、農業振興地域の整備に関する法律による農振地域に指定され、良好な筍を生産する竹林として整備されています。

#### □景観づくりの目標像

「竹の径」は、この丘陵にある竹林の景観を保全するため、市において環境整備（放置竹林対策・不法投棄予防）を進めるとともに、観光に繋げることを目的に竹垣や案内板の整備を始め、現在、洛西の新名所として、地域の活性化、まちづくり推進の起爆剤として期待されています。

今後も魅力あるまちづくり拠点として、市民や関係機関とともに景観づくりを進めていくことを目標としています。

#### □景観づくりの取組

##### [現状]

「竹の径」を構成する竹垣の整備は、平成12年度から市の事業として継続して実施しており、「竹の魅力をもっと広く、多くの人に知ってもらいたい」と市内の竹産業に携わっている事業者で組織する「向日市竹産業振興協議会」が、この地域の竹林から産出された竹材を使用して製作した竹垣を設置しているほか、自主的に維持管理を行っています。

一部の材料は、従来廃棄物として焼却処分されていた竹の枝も材料として活用しています。

##### [課題]

地元の天然の竹で作られた竹垣は、経年劣化による損耗が早く、1,800メートルになる竹垣の維持には毎年改修整備していく必要があり、景観の永続性を確保するには竹関連事業者の協力と後継者の育成が必要です。

##### [解決のためのアイデアや方針]

「竹の径」の適正な維持管理を進めるには、京都府文化財保護条例に基づく文化的景観の選定などにより、文化的景観としての価値付けを図るとともに、「竹の径」の適切な保全の仕組みを考えていきます。



## 4 景観を活かしたまちづくりへの展開に関する事項

### □景観を活かしたまちづくり活動

#### [現状]

##### 『竹の径・かぐやの夕べ』

平成14年度から向日市観光協会主催で開催される「竹の径・かぐやの夕べ」では、水ろうそくを浮かべた4,000本の竹行灯を使って「竹の径」を照らします。当日は、楽器の音色が漂う夕闇深まる竹林が、市民のボランティア等によって設置されたろうそくの優しい灯りに照らされ、幻想的な雰囲気につつまれていきます。

「竹の径・かぐやの夕べ」の開催により、景観資産を活かした市民や観光客との交流を進めます。



#### [課題]

「竹の径・かぐやの夕べ」の開催を通じて交流があるものの、「竹の径」の利活用を進め、景観を活かしたまちづくりを図るには、本地域が有する文化的価値を更に掘り下げるとともに、市の代表的な景観として市民や関係団体との一層の価値観の共有が必要です。

#### [景観を活かしたまちづくり活動のアイデアや方針]

竹製品のアンテナショップやタケノコ料理を提供する飲食店の展開などをし、隣接する洛西竹林公園を含む一体を竹のテーマゾーンとして市民の憩いの場になるように整備をすすめていく予定です。

## 5 その他必要な事項

### □ 提案団体の概要

#### ■ 組織名称

- ・ 向日市竹産業振興協議会

#### ■ 設立日、主たる事務所の所在地、会員数等

- ・ 設 立 平成12年
- ・ 所在地 京都府向日市寺戸町中ノ段16-7（事務局：向日市商工会）
- ・ 会員数 6社  
株式会社大塚竹材店      田中竹材店      有限会社清水銘竹店  
東洋竹工株式会社      竹重商店      長岡銘竹株式会社
- ・ 代表者 田中益一

#### ■ 設立目的

西ノ岡丘陵は、向日市の特産品である良質な筍の生産地であり、緑豊かな土地であります。しかし、後継者問題などの理由から放置竹林が増え始め、さらに不法投棄の影響もあり美しい竹林の景観が損なわれようとしていました。そういう状況下において、“竹の魅力をもっと広く、多くの人に知ってもらいたい”という願いから、市の働きかけにより、付近一帯の竹林の景観保全、また新たな観光資源を創造する事を目的に、市内の竹産業に携わっている事業者6社で“向日市竹産業振興協議会”を組織し、市の事業として平成12年度から「竹の径」の整備を始めました。

#### ■ 主な実施事業

- ・ 竹の径整備事業
- ・ 竹の径・かぐやの夕べ

#### ■ 景観資産の登録範囲における団体の活動内容

- ・ 竹の径整備事業（平成12年度より）
- ・ 竹の径・かぐやの夕べ（平成14年度より毎年10月頃）

### <他の制度による指定>

国土交通省 「手づくり郷土賞」

読売新聞社 「全国遊歩百選」

日本ウォーキング協会 「全国歩きたくなる道500選」

参 考

# 向日市「竹の径」案内図



## ◆西国風致地区



## ◆農業振興地区

